

【 GUINNESS の話 】

2001 年 3 月 2 日

ギネスには 18 世紀の終わりから使われ今なお用いられているというボトルの Original Stout、19 世紀にはいつから世界各地に船で運ばれ世界中の人に親しまれるようになった Foreign Extra Stout、そして近代 1961 年に開発され 1989 年から生産され現在にいたっても主流である缶ビール、Draft Stout の 3 種類がある。

ギネスは世界で最も人気のある黒ビールの一種であり、一日に一千万本を越える量が飲まれているという。

ギネスの歴史は 1759 年、当時若干 30 歳であったギネスがたったの 100 ポンド、8000 円程度で廃業した醸造所を借り入れたことから始まった。10 年余りでめまぐるしい成長をとげアイルランドで瞬く間に大人気となった。そして子どもや孫に受け継がれ 1833 年にはアイルランド一大きな工場になった。その勢いは国内にとどまることなく 19 世紀にはいりガラス瓶の製造技術向上に伴い遠距離運送が可能になりインド、カリブ海、アフリカ大陸にまで広がっていった。20 世紀にはいってもその勢いはとどまることなく、現在では世界有数の企業（有名なウィスキーメーカー、ハーゲンダッツ、バーガーキングなど）と提携し、世界 140 カ国 200 以上の醸造所が存在している。その功績は年間 2650 億～2700 億円であり今なお成長し続けているのだ。

このように世界的に愛されているギネスの秘密は、初めてギネスが製造された 1759 年以来ほぼ同じ方法で受け継がれている伝統な醸造にあるのではないだろうか。最高級の原料、最高級の 3 種類をブレンドした麦芽、純度の高い水、時間をかけてゆっくりと発行させるテクニック。当時 21 日かけて作り上げていたものを技術の進化した現在でさえ 10 日かけてじっくりと仕上げる手の込みよう。このような伝統を重んじ、最高の味を追求しようとする姿勢がギネスが世界中で親しまれる要因なのだろう。

ギネスの成長はまた、アイルランドの経済繁栄にもつながっているのだ。ギネスの成長に伴い、その莫大な会社は人手を要し人々の雇用も増したのだ。また工場の機械の清掃などといった大変汚い作業には、貧しい人々が貢献し彼らの収入源ともなった。ギネスの存在はアイルランドにとってもなくてはならないものとなった。これからもギネスは伝統を守り続けアイルランドの象徴としてまた、ビールの代表として世界中の人々に愛され、親しまれ続けるだろう・・・。

担当者

望月ゼミナール

経済学部 国際経済学科

伊藤瑠美